

(2) 情報教育研究会 (基礎)

会 長 太宰 三和 (八束小)
副会長 廣瀬 一輝 (中村西中)
事務局 岩村 悠雅 (西土佐小)

1. 研究主題 「GIGA スクール構想を見据えた基礎知識の習得」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和3年8月6日 (金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：Chromebook とアプリの活用について 講師：高橋 大輔指導主事 (西部教育事務所)	中村中学校 (家庭科室)	42名 参加

3. 今年度の取り組み

今年度の研修は会員の先生方から頂いた意見を集約し、Chromebook の活用と、そのアプリの活用について研究を進めていくことになった。そこで、西部教育事務所の高橋大輔先生をお招きし、研修して頂いた。研修では ICT 活用についての考え方や ICT の活用事例などの講話をして頂き、実際に Chromebook を使ってクラスルームを作成したり、他のアプリを開いて操作したりした。

研修会を開いた時点では、ほとんどの学校で Chromebook を使った授業をしておらず、Chromebook の操作に苦手意識を持っている先生もいた。そのため、会員の先生方にとって非常に有意義な研修会になった。

4. 令和3年度 四万十市教育研究会 夏季研修会

〈参加者からの意見・感想〉

- ・使うたびに方法が頭に入っていくので、繰り返し使わなければいけないと思った。
- ・アンケートの作成など、自分なりに上手にできたと思っていても、試しにやってみると上手くいかなかったのが、授業前には実際に自分がやってみることが大切だと思った。
- ・「児童がタブレットを筆記用具と同じように使うことができなければならない」ということを聞いて、児童だけでなく、教師も同様に慣れなければいけないと感じた。
- ・日々の業務改善に向けて、課題提出、集約に大きく役立ちそうだと思った。目的に応じてどの機能を使うのか今のうちに勉強していきたい。
- ・Chromebook は、実際に使ってみないとわからないことがたくさんあることを実感した。

5. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・夏季研修会において、会員の多くが希望する Chromebook を活用した研修を実施できたことがよかった。授業での活用をイメージした研修内容だったので、Chromebook のよさを知るとともに、2学期以降の実践につなげることができた。
- ・自校に帰っても、Chromebook についての話題を教員間で話すようになった。
- ・Chromebook 自体やアプリの機能を確認でき、授業への活用方法を見出せた

〈課題〉

- ・所属校のネット環境によって、個人の Chromebook が使えない会員がいたので、研修内容を所属校で活用できないことが残念だった。
- ・生徒よりも教員が Chromebook を使いこなす技能を習得する必要があると感じた。